

第 10 回ふれあいトーク（歴史・文化資源を活かすまちづくり）会議記録

1、日 時 平成 23 年 7 月 25 日（月） 午後 7 時から 8 時 45 分

2、場 所 金屋町公民館

3、出席者 ・金屋町まちづくり協議会 3 名
・寺のある町連絡協議会 3 名
・土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会 3 名
・吉久の伝統的町並みを考える会 3 名
・福岡くらしっく街道の会 2 名
・勝興寺まちづくり協議会 3 名

・高岡市

市長、都市計画課長、文化財課長、広報統計課長

4、会議次第

(1)市長挨拶

(2)市の出席者紹介

(3)高岡市歴史まちづくり計画の概要説明（都市計画課より）

(4)意見交換

.....

各団体活動紹介

金屋町まちづくり協議会

- ・金屋町まちづくり協議会は昭和 58 年に発足した。継続事業としては、先進地視察、「郷土を学ぶ金屋学講座」を行っている。平成 13 年からは「さまのこフェスタ in 金屋町」を 8 回実施し、その後「金屋町楽市 in さまのこ」として現在まで続けている。
- ・平成 22 年度は元気高岡市民まちづくり事業として、作り手の顔が見えるイラスト付きの金屋町おもてなしマップ「いこまいけ金屋町」を作成した。
- ・元気高岡市民まちづくり事業の継続事業として、現在「金屋町おもてなし外国語講習会」を実施しており、現在は中国語を学んでいる。今後、韓国語・英語の講座を予定している。
- ・平成 23 年は金屋町の開町 400 年にあたり、9 月に記念フォーラムの開催を予定している。

寺のある町連絡協議会

- ・寺のある町連絡協議会は、平成 9 年に瑞龍寺が国宝に指定されてから、関本町・寺町・八丁道の 3 自治会が主体となって結成された。
- ・会則では事業として、「瑞龍寺の諸行事への参加と協力をする」「参拝人への利便的な事業に取り組む」「住民の生活環境の整備を図る」「門前町のあり方等を研修するため

交流を促進する」「その他」の5項目を挙げている。大型の観光駐車場・参道の整備、交通規制をしていただいた。主な活動としては、春・秋2回の「八丁道おもしろ市」の設営・協力、瑞龍寺ライトアップ時の警備等人的協力、文化財防火デーへの協力、瑞龍寺の行事に合わせた除草清掃などを行っている。

- 瑞龍寺で行われた平成9年の第4回寺町サミットに初めて参加し、その後第5回からは主体性を持って参加してきている。今年は利屋町の大法寺で第17回の寺町サミットが行われるが、こちらにも協力していきたい。
- 瑞龍寺ライトアップには、開始された平成12年から継続して協力している。
- 平成8年に落慶法要があった際には、小学校PTAが中心となって「瑞龍寺賛歌ながれ雲」を奉納した。平成15年には、この歌を残すためにコーラスグループ「ながれ雲を歌う会」を立ち上げて継続して歌ってきている。若い世代に引き継ぐため、芳野中学校の合唱部にも歌っていただいている。

土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会

- 土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会は、山町筋が伝統的建造物群保存地区に指定されることから発足した。
- 指定を受け、山町筋をもっと活性化させようとイベントを考え、「高岡山町筋土蔵造りフェスタ」を開催するようになり、今年で13回目を迎える。「山町筋の天神様祭」、「山町筋のひなまつり」もそれぞれ次回で11回目、12回目の開催となる。
- 平成22年度からは、土蔵づくりのまち資料館の指定管理者となっている。
- 商人町として「商都高岡」を外部に演出しようと取り組みを進めているが、伝統的建造物群保存地区であり、建物の規制もあることが、商業に取り組んでいこうという動きの抑制にもなっていると考えている。

吉久の伝統的町並みを考える会

- 吉久の町並みは、江戸時代の道幅がそのまま残っており、専門家による評価が大変高い。格子戸が繊細で、まちに何もなかったところが魅力である。
- 当初、地区の人は「古い＝汚い」という見方をしていた。秋の獅子舞に合わせ、町並みアートを見てもらうようになり、地区の皆さんも、家や町並みの文化的価値について認識するようになった。
- 平成19年度には地区に関する古文書についての本を出した。平成20・22年度には、高岡市協働モデル事業として、町並みや獅子舞、民俗、風習などについて冊子や映像にまとめた。平成20年には、戸出御蔵跡から馬や川船に年貢米の米俵を積んで吉久御蔵まで運ぶ「馬下げ川下げ」を140年ぶりに行い、映像記録として残した。
- 山町や金屋町のみなさんともお互いに交流している。他の地区も含めて、横のつながりができればいいと思う。

福岡くらしっく街道の会

- 福岡くらしっく街道の会は、旧北陸街道沿いの約 900 メートルの町並みを中心とした、5 つの自治会から成っており、227 世帯が会員となっている。景観保全を目的に設立し、今年で 3 年目となる。
- 会では、景観の基準を考え、その案を出した。以前はこの道路沿線には都市計画決定による建築物の規制などがあったが、会としての基準案を出すことでこれが取り消され、一定の成果があったと考えている。
- 今年から、空地対策に取り組む美観部会、空家対策に取り組む空家部会、基準部会の 3 部会を設けて活動を行っている。

勝興寺まちづくり協議会

- 昭和 57 年に勝興寺が県の重要文化財に指定され、勝興寺花祭りの開催や御満座法要の手伝いなどを地元で行ってきている。平成 16 年には本堂の平成大修理落慶法要の手伝いをしたり、「寺町サミット in 勝興寺」に参加したりなどの活動を勝興寺で行ってきた。
- 地元で各自が積極的にお手伝いをしてきたが、活動に一体感がないように感じられたため、平成 22 年に古国府の 6 自治会が中心となり勝興寺まちづくり協議会を発足させた。
- まちづくりは、一部の方の活動に頼るのではなく、住民に地区の歴史的価値を知り好きになってもらうことから始めたいという考えで個人会員を募った。現在は個人会員 60 名、団体会員が 4 団体となっている。今年からは会で「ふるこはん通信」を発行し、情報発信している。
- 観光客のためだけでなく、住民が住みやすい生きた町にすることが、魅力あるまちづくりにつながり、訪れる人にも魅力的なまちに映るのではないかと考えている。
- 会の目的・理念として、「勝興寺の行事と連携し、地域の活性化を図ること」「町内間及び関係諸機関等の連携による自主事業の企画・実施」「寺内町や越中万葉の里にふさわしい歴史的景観のまちづくり」等を掲げて活動している。
- 平成 23 年度は、寺町サミットへの参加と協力、行灯での賑わいづくり、花と緑によるおもてなし、学習会などに取り組んでいく。
- 地域内には勝興寺をはじめ、棚田家・伏木気象資料館・北前船資料館といった文化財、寺院・神社、遺跡などがあるので、これらの結びつきを考えていきたい。そのためには、地元の皆さんにこれらの良さを知っていただくことが大事であると考えている。

市長

- 歴史まちづくり計画の中では、皆さんの地域はそれぞれ重点区域の中に入っている。重点区域は旧高岡町往来地区、伏木・吉久地区の 2 地区に分かれている。皆さんの取り組みは計画の中でもしっかりと位置付けており、行政としても支援していきたい。

また、皆さんから行政にも力を貸していただきたい。

- 長く活動しておられる団体、新しく結成された団体があるが、それぞれが素晴らしい活動に取り組んでおられる。それぞれの団体の横のつながりを大事にいただき、この機会に訪問しあったり、お互いの取り組みに参加したりしてほしい。
- 「八丁道おもしろ市」「さまのこフェスタ」など、それぞれ特徴があるイベントを工夫してやっていただいております、大変ありがたい。人が集まり、人が一緒になってつくりあげるといふ点が素晴らしいと思う。まちづくりは住む人と、訪ねる人が結びついて良くなっていくものと思う。
- 先ほどおっしゃったように、住んでいる人が住みやすいまちが、訪ねた人にも心地よいまちになると思う。歴史の中に染み込んだそれぞれのまちの佇まいや営みを皆さんが大切に、誇りを持っていくことで、訪れた方にも良い印象を持っていただけるのではないかと。
- イベントの時期だけでなく日々の活動の中で、まちをきれいにする、町並みの基準をつくるなど、継続的な努力をしていただいている。先ほどの基準づくりの例のように地道な活動を行うこと、イベントなどを通して人と人の触れ合いを大事にしていくことなどは、行政も一緒に進めていくべきところだと思う。

意見交換

勝興寺まちづくり協議会

- 平成 29 年には、勝興寺 12 棟の修理が完了する。毎年のように見学会を催しているが、どのように勝興寺ができたのか、建造物の様子を見ることができるのは今だけであり、先人の苦勞を知る貴重な体験である。
- 勝興寺にふさわしい環境整備が必要である。全 12 棟が重要文化財に指定されているのは全国でも勝興寺のみであり、この価値を地元だけでなく、市民・県民全体に認識していただきたい。
- 勝興寺は観光目的だけでなく、参拝のために来る方もおられる祈りの場である。建物の価値だけではなく、精神的な価値も大事である。
- 伏木駅から参道を上がると、伏木気象資料館、勝興寺、北前船に関わっておられた家々がある。伏木気象資料館の望楼を復元するということだが、これに合わせて擁壁をなんとかしてほしい。下の空き地も草が生えている状態であり、まちづくり協議会で活用させてもらうことはできないか。
- 現在、勝興寺周辺で水道管の取り替え工事を行っているが、道路の舗装が傷んでいることもあり、これを機会に整備の将来的な見通しが立てられないか。

市長

- いくつかの事業をまちづくり計画にも盛り込んだが、歴史的な文化財をどうするかというアプローチから進めたので、核になるポイントの事業を進めた上で、さらに周囲をどのようにしていくか、これから地区ごとにご相談しながら一緒に考えていくことに

なる。例えば勝興寺では、参道をどのようにしていったらよいのかなど、地元でご議論いただいたうえで、どのように行政と地元で力を合わせていくか考えていかなければならない。このような進め方はどの地区でも同じだと思う。

- いくつもお寺があるが、瑞龍寺と勝興寺は双壁である。文化財の多さ、価値の高さからいっても大きな財産である。今回の勝興寺の修復が完了するまでの過程も大変大きなことである。
- 瑞龍寺には最近たくさんの方に来ていただいているが、地区で修復を機会にいろいろな取り組みを長く続けてこられたことが、少しずつ実ってきた結果であると思う。このように地区ごとの情報を交換しながら、ひとつひとつ活動を積み重ねていきたい。また、行政もそのお手伝いをしていきたい。

金屋町まちづくり協議会

- 説明していただいた計画の中に、旧富田家のキュボラ工場跡地の整備事業があったが、どのような形で、いつ頃から実施されるのか。

文化財課長

- 旧富田家のキュボラについては、ぜひ保存させていただきたいと考えている。また跡地にはにしん釜と塩釜が多くあるが、このままでは風化してしまうだけなので、今年中に教育委員会で保管したい。キュボラの整備については、国の補助金の関係などがはっきりしたら、正式に交渉に上がりたいと思っている。後世に残し、町並み保存の大きなシンボルにしていきたいと考えており、なるべく早く実施したい。

市長

- 市としては国にしっかりとお願いしていきたい。この事業を一つの核にして、地元の方々と相談しながら、どのように利用させていただくか考えていきたい。

金屋町まちづくり協議会

- キュボラの写真を金屋町 400 年記念フォーラムのチラシやポスターに掲載している。市も保存に取り組んでくださるということで期待していきたい。

吉久の伝統的町並みを考える会

- 歴史まちづくり計画の中に、「江戸時代の蔵がそのまま明治になっても倉庫として地元で使われていた」というような記載があるが、明治 8 年に小学校などに払い下げられており、全てなくなっている。また、獅子舞の「ハイッタ・ハイッタ」について、「時にものを壊すこともある」という記載もあるが、現在の獅子舞は周囲に被害のないよう注意してやっているなので、誤解のないようにお願いしたい。
- 獅子舞には、昔から後継者育成問題があるが、行政として何も対策をしてきていない。吉久でも子ども獅子舞をしているが、参加してくれる子どもたちが減ってきた。行政として、子ども獅子が出たときに名誉のある機会を作っていただけたらと思う。
- 空家を整備して貸したり、買ってもらったりする時に行政に関わってもらえたら信用度が全く違う。福岡くらしっく街道の会では空家部会を設けられたそうだが、具体的にどのようなことをしているのか参考に教えていただきたい。

福岡くらしっく街道の会

- 3月の震災後、福島県から福岡に何世帯か避難して来られ、現在は市有住宅に住んでいただいている。このような皆さんに、部会で空家の斡旋ができないか検討した。インターネットを利用した活動も考えているが、現在、具体的な実績までは報告できる状態ではない。

市長

- 伝建地区に指定ということになれば、地区の空家について行政に直接ご相談していただくこともできると思う。それに至るまでの間は、空家をどのように使っていくか、地元とご相談していきたい。使い方によっては行政がお手伝いできることもあるかもしれないが、すぐに何かできるかという点で難しい。いずれにしても、空家や保存すべき大事な家について、どう活かしていけるかご相談し、制度をいろいろ利用しながら良い形にしていきたい。
- 子ども獅子舞については、継承ができるよう応援していきたい。発表の場を作る、指導者をどういうふうに応援するかなど、それぞれご相談していきたい。子どもたちが獅子舞を引き継いでいくようなしくみを市内全体で作っていく必要があると思う。

勝興寺まちづくり協議会

- 昔の通りの景観をどうするかという問題がこれから出てくるが、八丁道では景観について何か規制を設けているか。

寺のある町連絡協議会

- 瑞龍寺の裏側は風致地区に指定されている。八丁道界わいも以前は風致地区になっていたが、いつかの段階で解除されて今は指定されていない。

勝興寺まちづくり協議会

- 協議会として、何か取り組みをされているか。

寺のある町連絡協議会

- 現状は特に必要ないと思っている。
- 瑞龍寺正面までの車の乗り入れについて、大型車は進入禁止とされたのが良かった。国宝に指定された時から車の規制のお願いをしてきて、大型車は観光駐車場までということが実現したことで、風致地区の解除となっても特に問題はない。

市長

- 勝興寺や瑞龍寺はお寺なので、基本的にはお参りの場所である。そのような面をお寺側でも大事にしていきたい。現実には観光客がいらっしゃるのでも、お寺側でも観光客にもありがたい話を聞かせてくださるなど対応していただいております。訪れた方も喜んでおられると思う。参道を歩いていただくことで道沿いに店ができ、観光地としての瑞龍寺と文化財としての瑞龍寺が一緒になってうまく動き出している。それぞれの通り、それぞれのまちに趣があって、色々な人が訪ねる中で、ちょっと食事をしたり、お茶を飲んだりできるくつろぐ場所を作れたらいいと思うが、どのように進めていけばよいか、良い事例があったら教えていただきたい。

寺のある町連絡協議会

- 市に駐車場の建設や整備のお願いをした当時、大型バスで来る観光客に昼食を提供できるお店を出したかったが、なかなかやろうという人がいなかった。たくさんの観光客に来ていただいているのに食事処がないので素通りしているが、それを嘆いているだけというのが実情である。新湊の白エビかき揚げ丼のようなヒット商品があればよい。

市長

- 金屋町では、観光客が食事やお茶を楽しむお店を出したり、またそのために家を貸したりということは難しいか。

金屋町まちづくり協議会

- まず、瑞龍寺や山町筋にはしっかりとした駐車場がある。そこを活用して、いかに滞在時間を長くしてもらうかということがまちの活性化につながる。金屋町にも観光バスを止められる駐車場がほしい。駐車場がないため、観光客の滞在時間が短く、観光ガイドへの依頼も 30 分程度である。お店に入ってもらってもすぐに出ていかなければ間に合わない。先ほど旧富田家に駐車場をつくるという案も見したが、バスがそこまでどうやって入っていくか道順のことを考えると、バスを駐車することは難しいと思う。市がまちづくりの面でも観光面でも考えなければならない問題である。

市長

- 金屋町や山町筋など、まちなかの密集したところで広い場所を確保することは、なかなか大変である。山町では地元のご協力を得て、御車山会館の整備を少しずつ進めているが、こちらも駐車場の確保という課題が出てくると思う。このようなことも念頭に置いて進めていきたい。計画的に駐車場をつくっていくことがひとつの課題だと考えている。
- 先ほどの瑞龍寺の例もあったが、目的地のすぐ近くに駐車場があればよいというわけではないように思う。ちょうどよい距離を歩いていただける場所にあることも必要である。他の地区も含め、このようなことを念頭に置いて相談していきたい。

寺のある町連絡協議会

- 高岡大仏や古城公園、金屋町までの行き方を観光客によく尋ねられる。JR や、将来の新幹線を利用して来る観光客にとって、市内は観光資源が点在しており、歩いてまわることは無理だと思う。観光ルートだけを回るコミュニティバスのようなものが 1 時間に 1 本程度運行されるとよい。

市長

- ポイントとして「歩いて楽しむ」ということがある。初めて来られる方は、まず地図や看板自体がどこにあるのかも見つけられないので、わかりやすいサインを考えたい。このような配慮も含めておもてなしとなるのではないか。目的地までの移動の間をどのように楽しい通りにするか考えていかなければならない。
- まちにはブロンズ像が多くあるが、単なる風景とならないよう、立ち止まって楽しめ

る通りにするなど、歩いて楽しめるまちを考えたい。

- 観光中ちょっとした時間を楽しむ、食事のできる場所や展示館などがあれば、待ち時間ではなく、充実した時間となる。スポットごとにこのような場所があり、充実した時間を提供できるよう、皆さんもアイデアを出して進めていっていただきたい。

吉久の伝統的町並みを考える会

- パブリックアートに関しては、「200X年まちづくりの会」で高岡駅前から高岡古城公園にかけての銅像を調査したことがある。芸術性が高い作品であるのに、設置してある場所がそぐわなかったり、置いてあるだけの状態になっていたりする状況だった。これらをもっと前面に出して、それをたどって歩いていくと、駅前から古城公園にたどりつくというまちになれば良いと思う。
- 全国の古い町並みの中でも、まちの外からでも標識を見ればスムーズにたどりつけるまちと、そうでないまちがある。高岡市の場合はどうだろうか。初めて来た方の気持ちで考えてみるとよりよいまちになるのではないか。
- 最近、まちなかにできる飲食店等に長いのれんがかかっているのをよく見かけるが、高岡にはそういう風習はなかったように思う。町並みを活かすのならば、地元でももっと研究して、原風景を大事にしていかなければならない。

勝興寺まちづくり協議会

- 勝興寺は信仰の場であり、万葉の里のメッカでもある。万葉歴史館から勝興寺、勝興寺から万葉歴史館、どちらから行こうと思ってもたどりつけないとよく聞く。もう少し道しるべがわかりやすいといい。
- 大阪府立弥生文化博物館に行った時には、細い道だったが、色が付いているところをたどっていくと目的地にたどりついた。伏木駅・勝興寺・万葉歴史館をうまく機能的につなげるような道しるべを工夫していただきたい。

市長

- 勝興寺は越中国府跡でもある。常々万葉集と前田家を結びつけるものはないかと探している。万葉集の写本を前田家が大事にされていたという話があり、つながりが少し見えたが、家持時代の跡が形になって残っていればと思っている。そういう意味で、勝興寺の修復が終わり、家持がここで仕事をしていたというアピールができればいいと考えている。
- パブリックアートについては、いろいろなところにすばらしいものがあるのに活かされておらず、通り過ぎられている印象がある。もう少し意味のあるものとして際立たせていきたい。例えば、北陸銀行高岡支店前にある童謡「夕日」を題材にした銅像は、ボランティアの方に季節ごとに飾っていただいている。みんなでアートを大事に育てていくことに気付いていくことが大切であり、これからの課題である。
- 高岡の原風景を保っていくことは大事なことである。高岡らしい景色や高岡らしいおもてなしを提供できるようにしていきたい。
- 歩いてみたら目的地に自然とたどりつくように、まちの通り自体にそのような趣があ

ることがいちばんいいのではないかと思っている。例えば、瑞龍寺であれば、石灯籠のある通りを歩けばたどりつくというように、高岡大仏・古城公園などについても、自ずからそういう趣のある道ができればいいと思っている。道案内のあり方も工夫したい。市でもサイン計画を進めているが、十分ではない面もあるかもしれない。これから歴史まちづくり都市・観光都市・交流都市として、初めて訪れる方を念頭においてまちづくりをすることが大切である。

- 高岡の歴史は皆さんに必ず満足していただけるものであるので、そういう材料を持っている高岡として、「来て良かった」と思っただけのまちにしたい。今日ご参加いただいた皆さんのまちには、それぞれしっかりとした歴史があるので、それを大事に育てていただくことも皆さんにお願いしたい。